

小中高大産をつなぐ理数・科学教育

# 他校種・企業と築く「学習共同体」

## 出張科学実験教室は大盛況

2018年3月9日、三重県立神戸高等学校の生徒らは、近隣の小学校へ出張科学実験教室を実施した。学校からは理数科を中心に将来教員を目指す40人が参加。鏡や花火制作の実験で、児童は大いに盛り上がった。

2012（平成24）年度から県教育委員会の「Mie SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業」指定校となった神戸高校では、課題研究の成果発表などを行う「スーパーサイエンスデー」を皮切りに、漸次活動を拡大。近隣中学校での出前授業や課題研究における三重大学などとの連携、万協製薬や本田技研などへの企業訪問や企業からの出張講座を実施してきた。今回の出張教室で、神戸高校が進めてきた「小・中・高・大・企業」と連携する「学習共同体」の枠組みが完成した形だ。



理数科の生徒たち



## 三重県立神戸高等学校



### ●実施担当

平澤理恵子 教諭

### ●活動のモットー

自分たちで感じ、吸収する力を養うために、様々なことを経験する場や人と出会う機会を、なるべくたくさんつくっていきたく考えている。



小学校出張科学実験教室



HONDAワイガヤ



県の発表会

## 将来のビジョンを定める一助に

取り組みの狙いは「小学校で惹起した科学への興味・関心を中学・高校での学習に受け継ぎ、その能力を大学で発揮して就職や人生設計への展望につなげる」という一連の流れを定着させることだ。担当の平澤理恵子教諭は「大学合格はゴールではなく新たなスタートですから、志望校選択の時点で、ある程度は将来の方向性を定めることが望ましい。課題研究における大学との連携や、企業訪問で研究者と接することが、その一助になればと行事を増やしてきましたが…、少し増やしすぎたかもしれません…」と話す。

これは杞憂だ。生徒自身は授業外の行事にも積極的で、最近では理数科の生徒のみならず、普通科の理系生徒の参加も増えている。平澤教諭も「特に課題研究を進めていくなかで、「指示待ち」が減り、生徒が自ら考えて動くようになりました。コミュニケーション能力も向上しています」と成果を実感している。（平成29年度プログラム助成）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索